

『線香をまつすぐ立てるには』

線香をまつすぐ立てると善い人になる。 本当？

まつすぐ立てるには、どうしたらよい？ (まつすぐ立たないのはどうして？)

仏道とどう関係するのか？

八大人覺を読んでみると・・・。

はちだいにんがく  
八大人覺

六つには修しゆぜんぢやう禪定。法に住して乱れず、名づけて禪定と曰ふ。

仏のたまは言なんだちびくく、汝等比丘、若し心を擾おさむれば、心則ち定ぢやうに在り。心、定に在るが

故に、能よく世間消滅ほつさうの法相を知る。是の故に汝等なんだち、常に当まさに精勤もろもろして 諸の  
定を修習すべし。若もし定を得ば、心しん則ち散ぜず。譬へば水を惜しむ家の、善く

堤塘ていたうを治むるが如し。行者も亦しか爾り、智慧の水の為の故に、善く禪定を修して  
漏失ろしつせざらしむ。是れを名づけて定と為す。

七つには修智慧しゅちゑ。聞思修証を起すを智慧と為す。

仏言のたまはく、汝等比丘なんだちびく、若し智慧有れば則ち貪著とんぢやく無し、常に自ら省察しやうさつして

失有しつらしめず。是れ則ち我が法の中に於て能く解脱げだつを得。若し爾しからずは、既に

道人だうにんに非ず、又白衣びやくえに非ず、名づくる所なし。実智慧は則ち是れ老病死海を度

る堅牢けんろうの船なり、亦た無明黑暗むみやうの大明燈だいまやうとうなり、一切病者びやうじやの良薬ろうやくなり、

煩惱ぼんなうの樹きを伐る利斧りふなり。是の故に汝等なんだちまさ当に聞思修慧もんししゆゑを以て而も自ら増益すべ

し。若し人智慧もの照せうあらば、是れ肉眼にくげんなりと雖も、而も是れ明眼めやうがんの人なり。

是を智慧と為す。

八つには不戲論ふけろん。証して分別を離るるを、不戲論と名づく。実相を究尽す、乃すなわち

不戲論なり。

仏言のたまはく、汝等比丘なんだちびく、若し種々の戲論もあらば、其の心しん則ち乱る。復た出家す

と雖も猶なほ未だ得脱せず。是の故に比丘びく、当まさに急ぎて乱心と戲論とを捨離すべ

し。汝等なんだちも若し寂滅じやくめつの樂を得んと欲おもはば、唯まさ当に善く戲論わすらの患を滅すべしを滅すべし。

是れを不戲論と名づく。